二十世紀
国民唱歌

大日本帝国

073292-000-4

特53-156

大日本帝国

友田　宜剛／著

M34

CEH-0871

1904
14
561

二十世紀

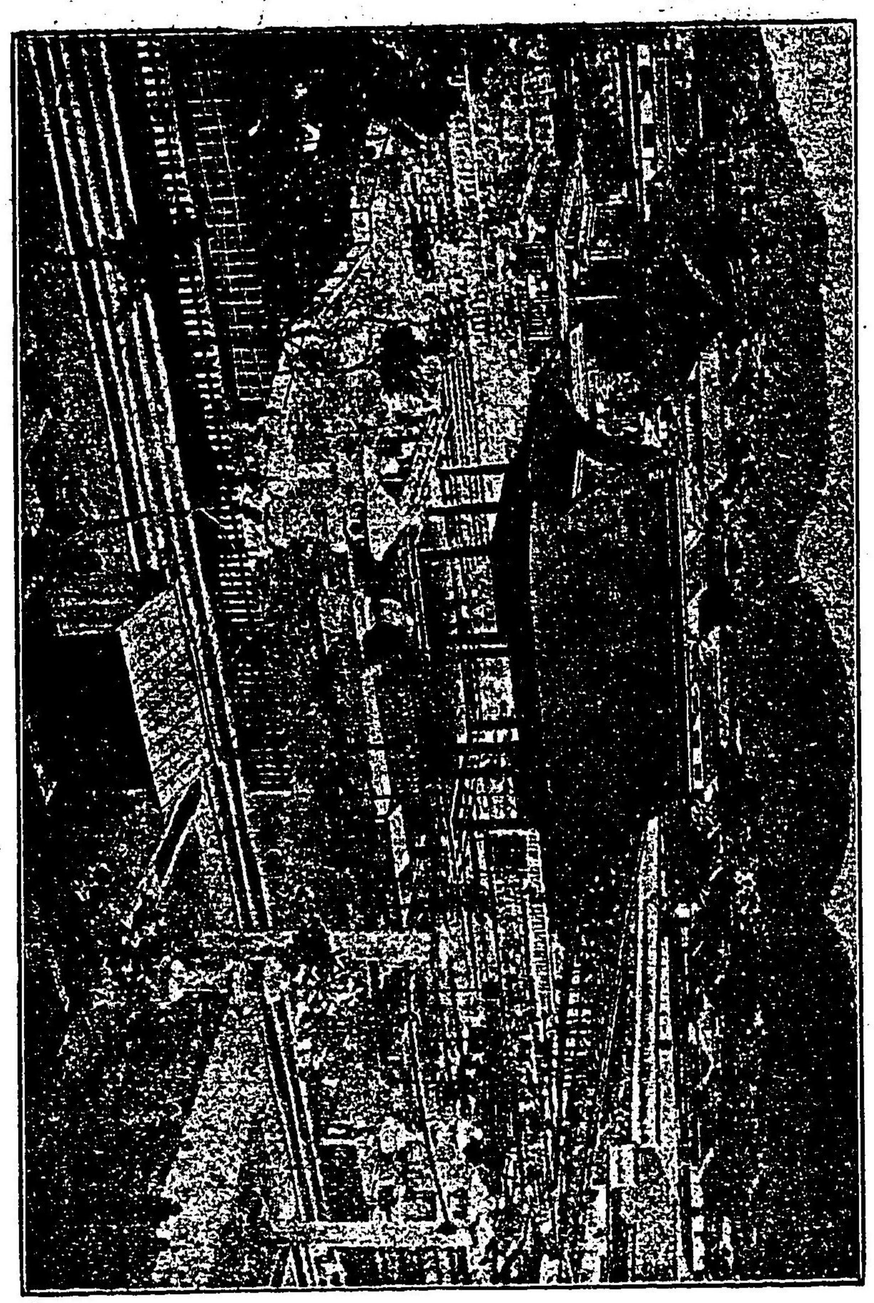
國民唱歌

大日本帝國

特53
156

二十世紀國民唱歌 大日本帝國

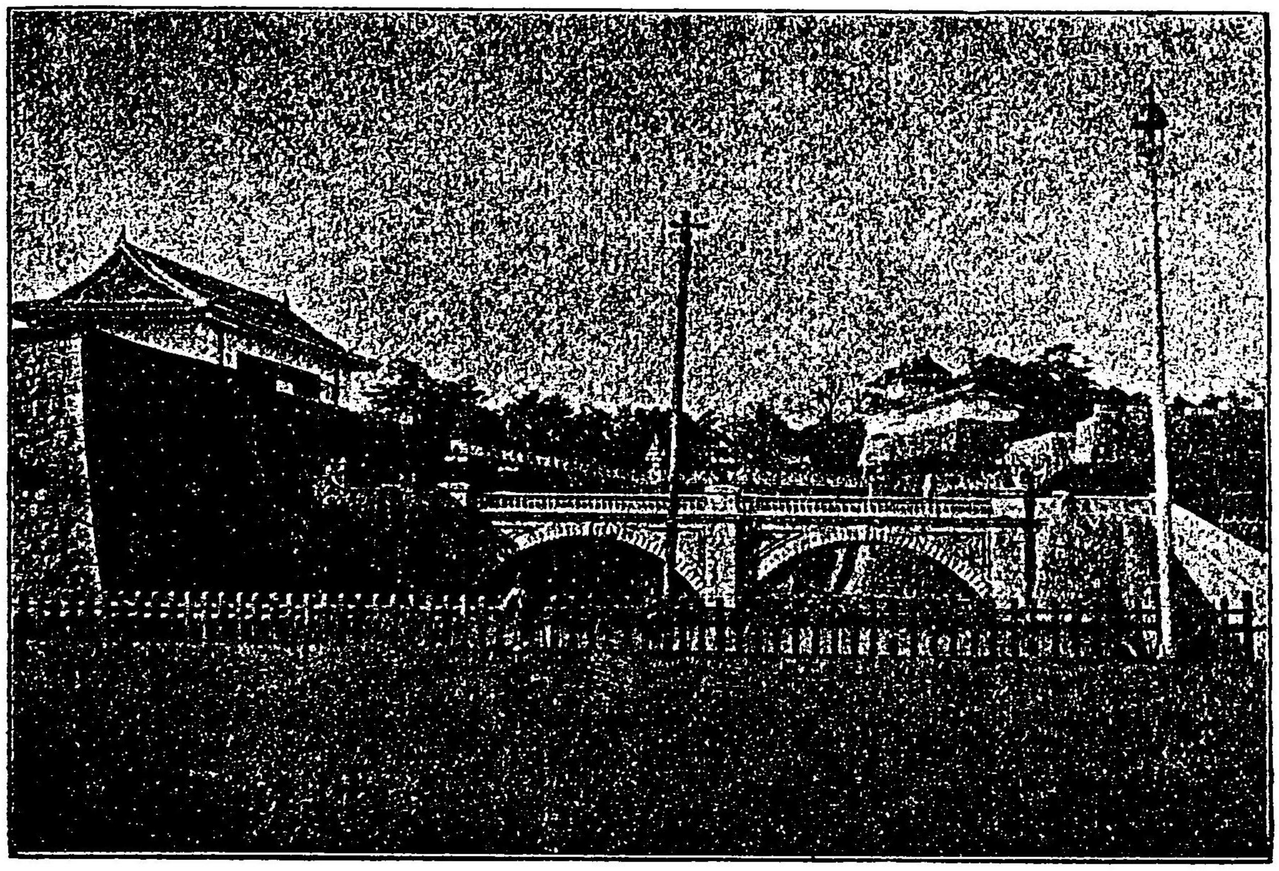
女子高等師範學校教授 關根正直校閲
女子高等師範學校講師 友田宜剛作歌
女子高等師範學校助教授 吉田信太作曲



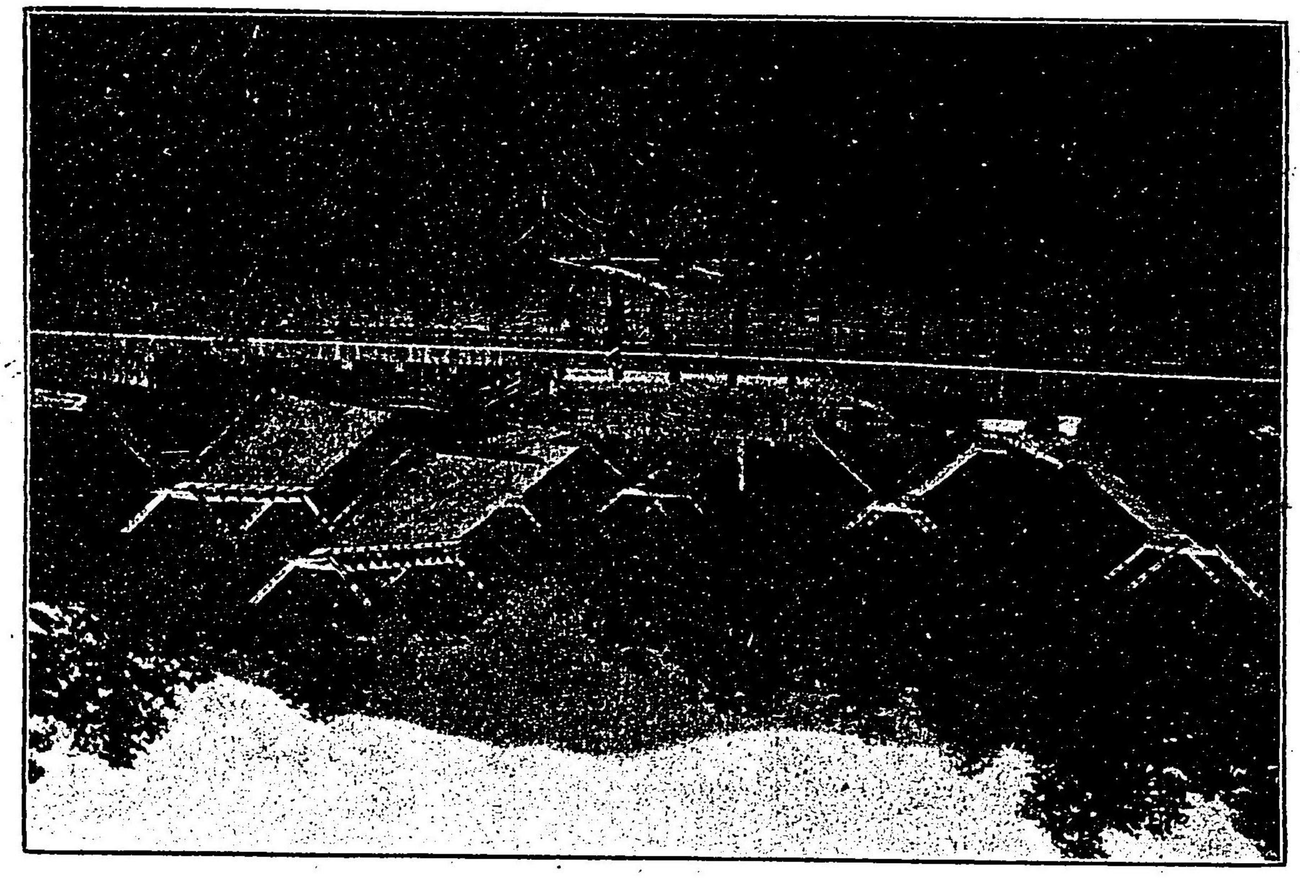
謹告

身の程をもかへりみずして、世に公にしたのは、實にはづかしい。けれども、この書の收入の一分を以て端正なる學生の貧を秋毫ほどでも助けたい微衷であるから、どうか之を諒として、盛んに愛購愛讀して下さえ。

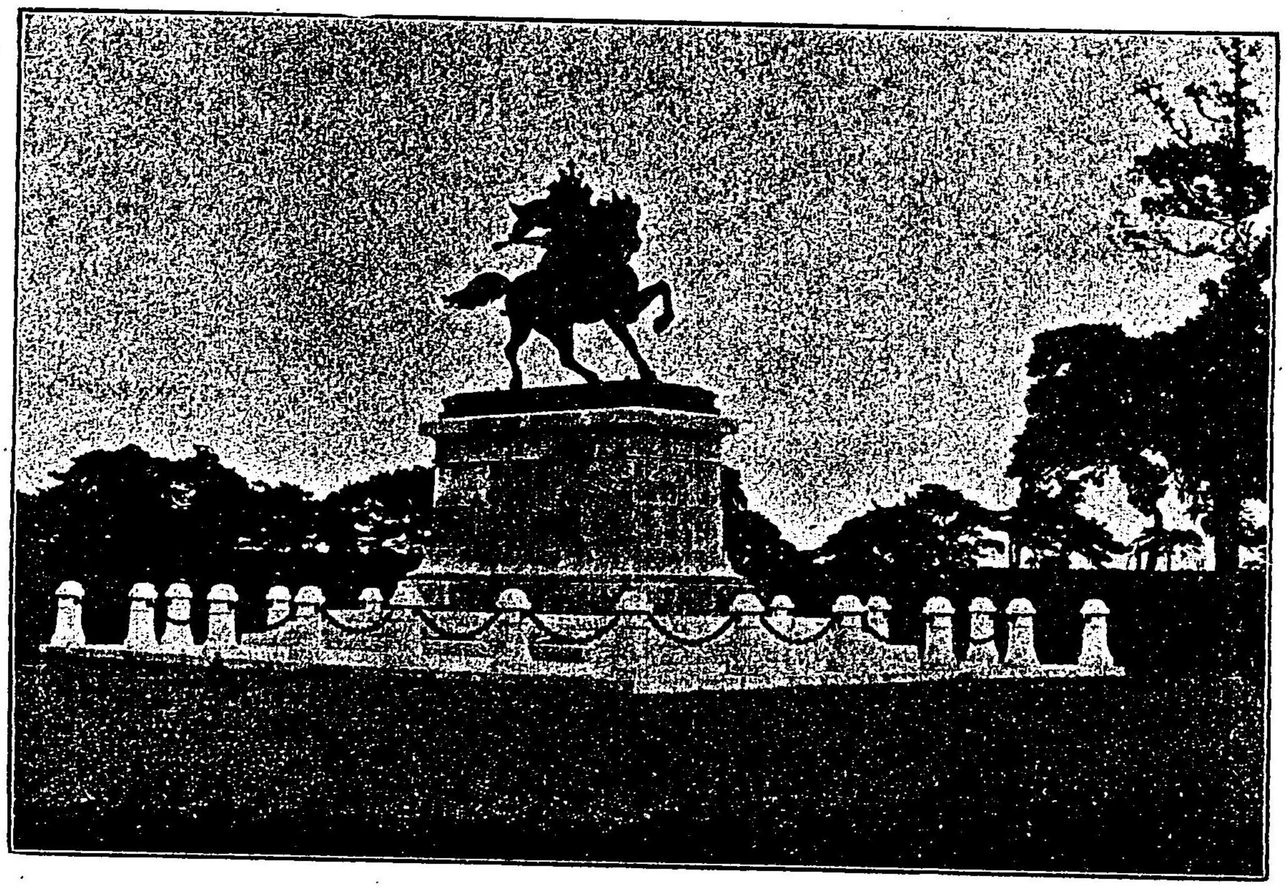
明治三十四年六月廿一日　著者謹みて白す



皇城正門

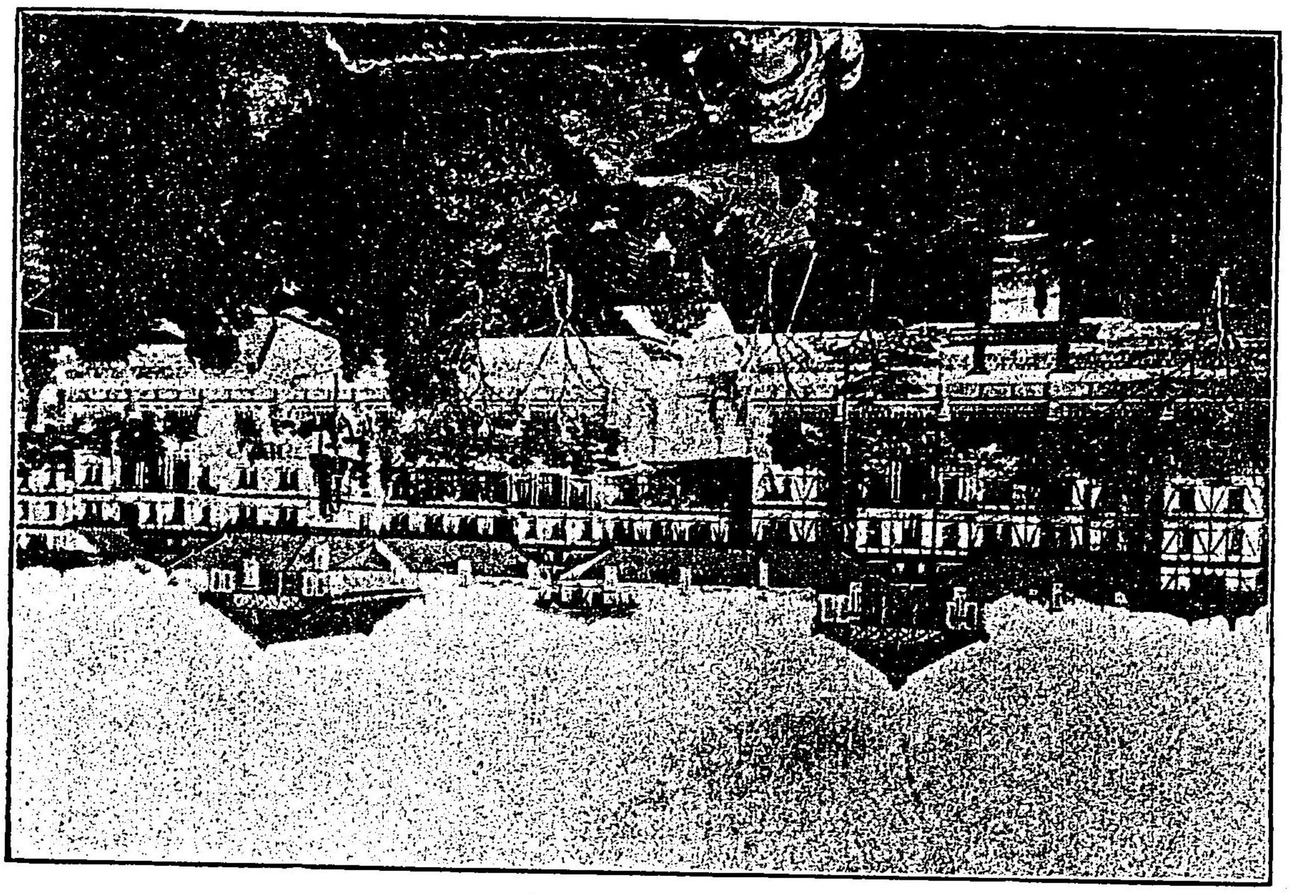


崩　大　勢　伸



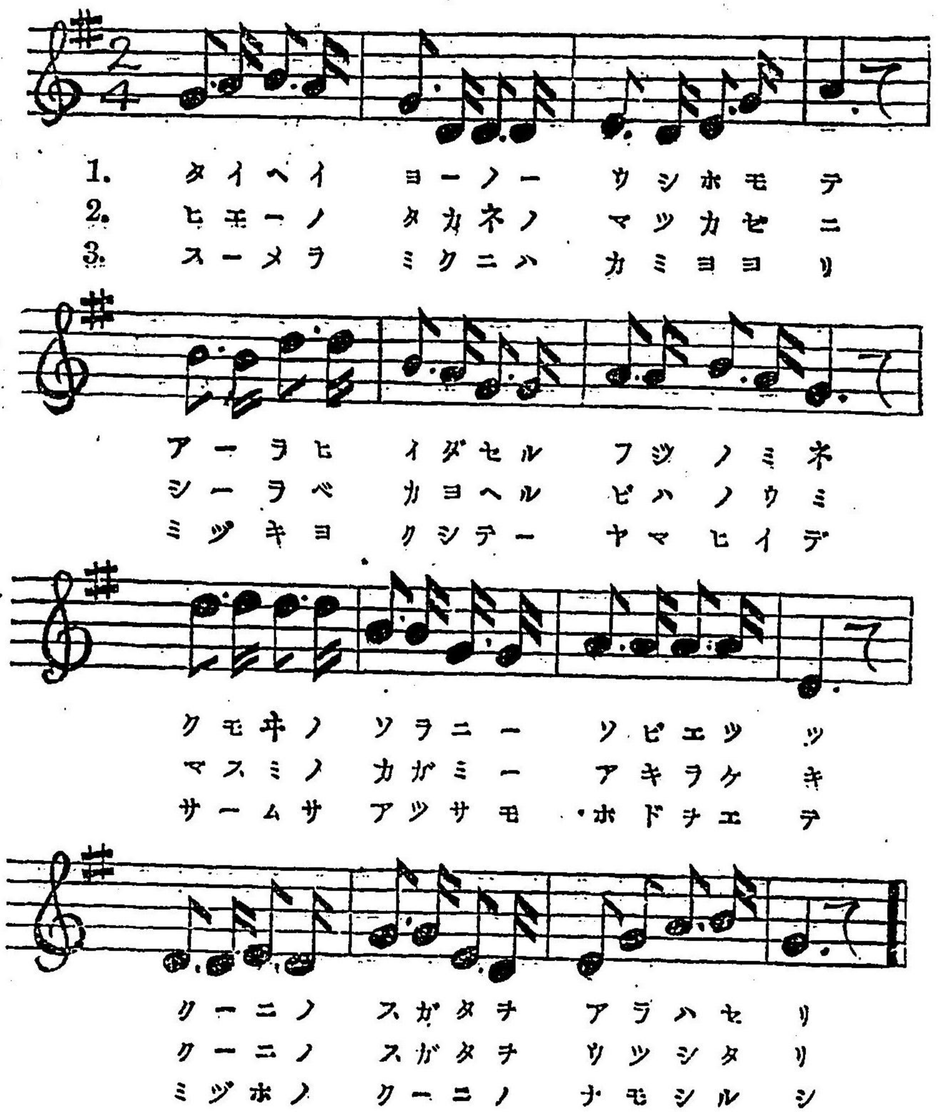
皇城外楠公之銅像

高東鐵骨圖



二十世紀國民唱歌
大日本帝國

吉田信太作曲



二十世紀國民唱歌

大日本帝國

一

太平洋のうしほもて
あらひいだせる富士の峯
雲井のそらに聳えつゝ
國の姿をあらはせり

二

比叡の高嶺の松風に
しらべかよへる琵琶のうみ
ますみの鏡あきらけき
國の姿をうつしたり

二拍子 略譜 ト調

1.2	3.2	1.5	5.5	6.5	6.1	2.0
タイヘイ	ヨーノー	ウシホモ	テ			
ヒエーノ	タカネノ	マツカゼ	ニ			
スーメラ	ミクニハ	カミヨヨ	リ			

3.3	5.5	3.2	1.1	2.2	3.2	1.0
アーラヒ	イダセル	フジノミ	ネ			
シーラベ	カヨヘル	ビハノウ	ミ			
ミツキヨ	クシテー	ヤマヒイ	デ			

5.5	5.5	3.3	1.1	2.2	2.2	5.0
クモキノ	ソラニー	ソビエツ	ツ			
マスミノ	カガミー	アキラケ	キ			
サームサ	アツサモ	ホドチエ	テ			

5.5	6.5	1.1	6.5	6 1	2.3	1.0
クーニノ	スガタチ	アラハセ	リ			
クーニノ	スガタチ	ウツシタ	リ			
ミツホノ	クーニノ	ナモシル	シ			

三

皇御國は神世より
水清くして山秀で
寒さ暑さも程を得て
瑞穂の國の名もしるし

四

天つ日嗣の高御座
天地と共にきはみなく
御世を重ぬる百二十
年をつむこと數千歳

五

代々の御門の御惠の
波はあふれて四方の海
そのたゞ中になりいでし
御國の民ぞ幸多き

六

皇御國は幾千年
侮うけしためしなく
神の御稜威は太古より
外國までもかゞやけり

七

神代の昔素戔嗚の
尊は新羅におしわたり

八

神功皇后亦更に
三韓征伐したまひき

甲鐵艦はなけれども
海を見ること陸のごと

萬里の波をけやぶりて
隣に行くに異ならず

九

元寇十萬筑海に
寄せ來し時のさまを見よ

奮鬪殺戮みなごろし
生かしてかへす只三人

一〇

豐太閤が征韓に
誰かなびかぬ其の武勇

公もし命長からば
四百餘州もわが領土

二　日清事件の顚末に
　誰かは知らぬわが手なみ
明治の御世の御光は
　ますく世界に輝けり

三　げに皇國は幾千年
　侮うけしためしなし
その皇國をうけつげる
　われらが責任は輕からず

一三　皇御國は神代より
　ひろく諸國と行きかひて
互に有無を通じつゝ
　國の進歩をはかりたり

一四　支那と交りはじめては
　文物制度とゝのへり
佛の教わたり來て
　建築技藝も巧なり

一五　遣唐留學問僧

波路をわけて國のため
ひろく研きし玉ほこの
道はますく進みたり

一六　足利時代の末よりは
西洋諸國もやゝ來り
德川氏のはじめには
航海いよく開けたり

一七　名もうるはしき朱印船
遠洋貿易盛んなり
山田長政シーヤムに行き
國王たりしもその頃ぞ

一八　天草島の禍亂より
外交貿易大頓挫
國を鎖して二百年
戈を枕に眠りたり

一九 浦賀灣頭立つ浪の
音に驚き夢さめて
大勢ここに一變し
五の港は開かれぬ

二〇 英吉利・亞米利加・露西亞・獨逸
佛蘭西・以太利・丁抹
世界に名ある國々は
皆わが友となりにけり

二一 輝く御國の日の御旗
一しほ色もはえまさり
十九世紀の入相に
紫雲めでたく棚引きぬ

二二 げに皇國は神代より
ひろく諸國と交れり
その皇國をうけつげる
我等が先途多望なり

二三　東洋海上權力は
わが皇國ぞ收むべき
戰鬪艦に巡洋艦
盛に興せ海軍を

二四　陸のかためも輕からず
師團旅團の任重し
鍛へに鍛へとぎにとげ
日本魂日本刀

二五　血氣の勇にはやらんは
虎を手うちの物笑ひ
剛毅の精神やしなひて
智略をふかくそなふべし

二六　國富まざれば兵弱し
民力休養こゝなるぞ
奢侈を固くいましめて
國家の富をはかるべし

二七　國家につくす忠節は
軍の時と限るかは
おの〳〵常にとる業を

二八　誠心こめてつとむべし
學びの道に立つものは
學びの道にすゝめかし
商工業をなすものは
又その業に身を碎け

二九　農事を業とするものは
ひたすら農をつとむべし
これぞ平和の今の世に
國家につくす忠節ぞ

三〇　國家の安危興亡は
刃の上に限らんや
武器を用ゐぬ戰爭は
暫しも世界に止む間なし

三

日本大丈夫いざ立てよ
むなしく眠る時ならず
今こそ開けめざましき
二十世紀の初舞臺

三

日本男兒のうでまへを
世界に示すはこの時ぞ
立てよふるへよ諸共に
ますゝ國威を輝かせ

友田宜剛

明治三十四年五月

明治三十四年七月三日印刷
明治三十四年七月六日發行

定價金六錢

不許複製

著作者　東京市神田區西小川町一丁目九番地　友田宜剛
發行者　福井縣福井市佐佳枝中町五十二番地　品川太右衛門
印刷者　東京市京橋區築地三丁目十五番地　淺野榮作
印刷所　東京市京橋區築地三丁目十五番地　帝國印刷株式會社

T-12

關東大賣捌所

日本橋區通四丁目　青野友三郎
京橋區鎗屋町　北隆館
神田區駿河臺西紅梅町　光融館
京橋區弓町　松邑孫吉
日本橋區大傳馬町二丁目　内田老鶴圃

關西大賣捌所

大阪北久寶寺町四丁目　三木佐助
大阪備後町四丁目　吉岡平助
大阪北久寶寺町四丁目　盛文館
京都市寺町通三條下　河合卯之助